

Inspiration-Times

Vol.2

ムーの遺跡が松山に

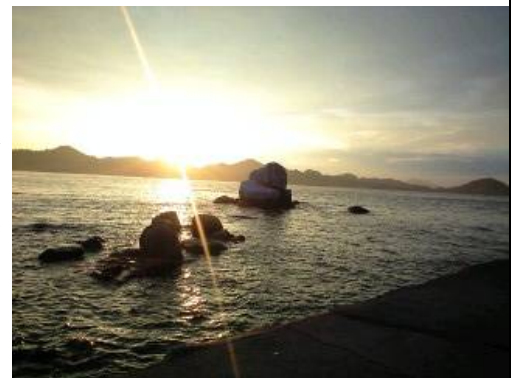
普段何気なく目にしてきているものが実は超古代遺跡いわゆるオーパーツである可能性が出てきている。

そこは愛媛県松山市高浜町にある白石の鼻と呼ばれるところ。松山観光港を超えて海沿いに車を走らせると、左前方に海の中にぼつりと浮かぶ、白い岩が見えてくる。いくつかの岩が重なっているように見えるが、その大きさは遠くから見た感じでは分からないが、右隣の神社と同じ大きさに見えるということはかなりの大きさではないだろうか。

近づくにつれ大きな岩の塊がその大きさと姿を現してくる。満潮時にはその遺跡は海の中に、独特の雰囲気漂わせながら存在している。



県道沿いから白石の鼻を望む。青い海に浮かぶ白色の三つ石。神社と岩の対比から、その石の大きさが分かる。釣りのメッカでもある。



岩と岩の間に光が差し込む夏至のライン
春分秋分・夏至・冬至とそれぞれのスペクタクルを展開する。これこそ証拠では？

この岩地元の人々の間では三ツ石と呼ばれているらしい。ひとつの岩の重さ推定100tらしい。

普段市民は何事もなくこの岩の前の道路を通り過ぎていくのだが、もしかするとこの岩は8000年以上前に古代人の手によりこの場所に置かれたとしたらどう思うのだろうか。

残念なことにはこの岩が人間の手によりつくられた遺跡であることはまだ証明されていない。未だ自然によってできたものとされている。

しかし筆者は先日気を感じることできる方にこの写真を見せたところ、(写真では)よいものか、悪いものか分からないが、すごい気を感じると言っていた。ムーの時代に祈りを捧げられていた場所(遺跡)であるならば、大きな気が今もあっても、不思議ではない。

龍は舞い降り そして昇りゆく

白石の鼻に祭られている神社は龍神社と呼ばれる。祭神は豊玉姫命・彦火火出見命・豊玉彦命であり、豊玉姫命は海神の娘と娘とされている。

春分・秋分の日に三ツ石の間から差し込む光は波に揺られ、まるで光の龍が波の上を泳いでいるかのようなものである。その光景に人々はこの神社を龍神社と名付けたのかもしれない。

しかしながらムー時代この岩がある場所は海の中ではなく、陸地だったとも考えられている。筆者は祈りをささげた場所であつたらうと思われる平に整えられた岩に座り、そこから三つ石を見ると、空と山際が絶妙な位置関係にあった。しかし、その岩は普段は海の中にある。謎は謎を呼ぶ古代のミステリーは、摩訶不思議を保ちつつ、威風堂々と現在もある。



春分の日の三ツ石

かめ石

白石の鼻には亀石と呼ばれる岩もある。こちらも冬至の日には岩と岩の小さな空間に夕陽が差し込む。

この岩地元の人達が亀に似ているというので亀石と名付けたそうだが、確かに亀に似ている。

もし前文明のムーの人達も亀をイメージしてこの岩の配置をしたのだとすると、彼らもユーモアの持ち主だったのかもしれない。ユーモアとは文明や時代を超えた共通事項なのだろうか。タイムマシンがあるならば、会ってジョークを交えながら話しをしてみたい。

